

岐阜大学との連携で「地産地消のビジネスモデル」創出へ

岐阜大学の高見澤一裕教授と佐藤健教授の微生物浄化（バイオレメディエーション）に関する研究成果を活用して、土壌・地下水汚染修復事業を柱とした環境ビジネスの会社を2003年に設立。その代表を務めるのが鈴木社長である。鈴木社長は研究分野には縁遠い文系出身であるが、広告関連会社時代に培ったブランディング戦略など独自の経営戦略と経営理念により会社を運営してきた。鈴木社長曰く、素晴らしい技術で、高度な性能や機能を備えた商品をつくることも大事だが、その商品にストーリー性を持たせることがもっと大事である。また、

大学との連携を進めるには、大学の研究シーズを企業として使えるようにするために、いかに事業化に向けてアレンジできるかがポイントであり、(株)コンティグ・アイは、大学と企業との橋渡しを自ら実践している企業なのだという。鈴木社長の傍らには、研究開発責任者である、岐阜大学卒業生の山田取締役の存在がある。他にも岐阜大学卒業生や学生アルバイトが鈴木社長のもとにやってくるそう。起業後も、岐阜大学との数々の共同研究を進め、バイオエタノール事業へも展開し、新たなビジネスモデルを近々スタートさせる予定である。

新たなビジネスモデル “これが地産地消のビジネス!”

岐阜大学の高見澤教授の開発した「セルロース由来のバイオエタノール技術」を活用し、金融機関から出るシュレッダーダストを原料にエタノールを精製。エタノールをウェットティッシュの溶剤として使用し、ウェットティッシュを金融機関の顧客に配布するという地産地消、環境に配慮したビジネスを提案し、提携先にて2015年より岐阜県内の某金融機関でスタート。



(左) 鈴木 繁三 代表取締役
(右) 山田 博子 取締役

～岐阜大学の卒業生として～ 山田 博子 取締役・CTO (研究開発責任者)

学生時代の所属研究室の鈴木徹先生から、実験・研究や考え方はじめ、研究予算を獲得する為の手続きや書類作成、試薬購入（価格交渉）、伝票類の整理等も含め、研究者として仕事を取る為の基礎を教えて頂いたことが今の仕事に生きています。そして、高見澤先生・佐藤先生ふくめ岐阜大学の先生方、卒業生の先輩方々には、事業化の案件やアドバイスをたくさんいただき、助けられています。教えて頂いたことや

紹介いただいた人脈は、その方が苦労して時間をかけてようやく掴んだものばかりで、それを私に教えて下さった理由は、「岐阜大学の卒業生だから」ということ。私が岐阜大学で得たものの中でも一番仕事で生きているのは、経験と人脈。岐阜大学の学生の皆さんも無茶や無駄を恐れず、学内外で経験を積み、卒業後も先生方や先輩方を頼って人脈を広げ、様々な環境下に適応できる力を養えることを願っています。



高見澤 一裕 取締役
岐阜大学
応用生物科学部
教授

・実証プラント

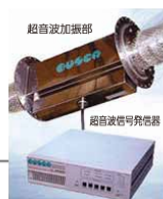


ゴルフ場の整備で発生する刈草、いわゆる廃棄物ですが、これを酵素糖化法によりブドウ糖に分解し、酵母で発酵してバイオエタノールを生産するという研究を確立しました。そこで、コンティグ・アイにおいて実証プラントを稼働させ、事業化に至っています。



佐藤 健 取締役
岐阜大学
工学部 社会基盤工学科
教授

・超音波殺菌装置「ブースカ」



会社発足後も共同研究をいくつか実施してきており、中でも超音波殺菌装置「ブースカ」の開発は、新しい循環風呂用殺菌装置として、岐阜県内のスーパー銭湯に採用されました。循環式浴槽を利用する温泉や温浴施設での益々の利用を期待します。

株式会社コンティグ・アイ (岐阜市)

資本金: 3,400万円 従業員: 9名

主な事業

セルロース系バイオエタノール生産事業、土壌・地下水汚染修復事業、土壌・地下水汚染調査用バイオアッセイ、超音波殺菌装置の開発・販売

受賞歴

経済産業省「光る大学発ベンチャー20選」(平成20年度)に選定
(財)名古屋産業振興公社「平成22年度大学発ベンチャービジネスプラン」奨励賞 ほか

※ (株)コンティグ・アイには、岐阜大学主催の学生アイデアコンテスト「ドリームプロジェクト」(平成21年度～23年度実施)にご支援いただいています。この度、岐阜大学長から感謝状が贈呈されました。